

# 慶州・金冠塚が語りかけるもの

1921年10月、植民地支配下の朝鮮・慶州市街の一角で、後に「金冠塚」と命名される古墳から、金冠をはじめとする大量の遺物が発見されました。本シンポジウムでは、京都大学に遺されている当時の調査関連資料の紹介を兼ねて、金冠塚の発見が、当時の人々や、現在にいたるまでの日本と朝鮮の考古学的研究にどのような影響を与えてきたのかについて考えます。

2021年3月20日(土)

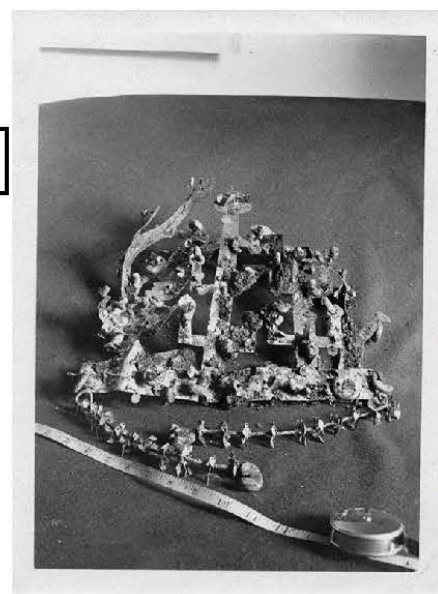
13時30分～17時30分



オンライン開催 **参加無料（先着順200名）**

視聴するためには事前登録が必要です。QRコード  
または下記URLよりお申し込みください。

<http://bit.do/Ceschi20210320>



## プログラム

趣旨説明 吉井 秀夫

(文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター長)

## 講演

植民地慶州、古蹟調査と現地住民

—「金冠塚遺物慶州留置運動」を中心に—

荒木 潤

(韓国・慶北大学校人文学術院客員研究員)

「京都大学所蔵金冠塚関連資料について」

吉井 秀夫

「金冠塚再発掘の成果と課題」

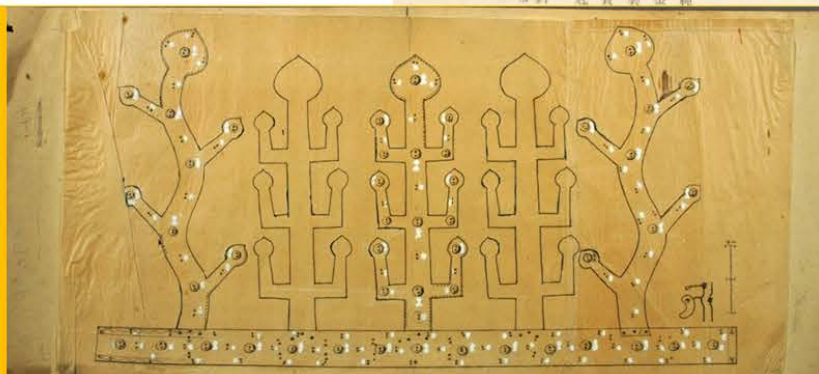
金大煥

(韓国・国立中央博物館学芸研究士)

討論：吉井秀夫・荒木潤・金大煥

お問い合わせ：京都大学文学研究科附属  
文化遺産学・人文知連携センター  
京大文化遺産調査活用部門  
Tel：(075)753-7691

主催：京都大学文学研究科附属  
文化遺産学・人文知連携センター



## 金冠塚をめぐる年表

- 1876年 日朝修好条規調印
- 1894年～ 日清戦争
- 1900年 八木奘三郎による調査（1901年も）
- 1902年 関野貞による調査
- 1909年～ 韓国統監府の依頼による関野貞らの古蹟調査（1915年まで）
- 1910年 韓国併合
- 1915年 朝鮮総督府博物館開館
- 1916年 古蹟及び遺物保存規則の施行  
古蹟調査委員会の設置
- 1919年 三・一独立運動
- 1921年 **慶州・金冠塚の「発見」**  
古蹟調査課の設置
- 1924年 金鈴塚・飾履塚の発掘  
古蹟調査課の廃止
- 1926年 瑞鳳塚の発掘  
**朝鮮総督府博物館慶州分館開館**
- 1931年 朝鮮古蹟調査研究会の設立
- 1933年 朝鮮宝物古蹟名勝天然記念物保存令公布
- 1945年 敗戦（解放）
- 1946年 壺杆塚・銀鈴塚の発掘
- 1973年 天馬塚・皇南大塚の発掘
- 2013年 国立中央博物館「朝鮮総督府博物館の資料整理事業」開始
- 2015年 **金冠塚の再発掘調査**

# 植民地慶州、古蹟調査と現地住民 — 「金冠塚遺物慶州留置運動」を中心に —

荒木 潤(慶北大学人文学術院客員研究員・講師)

## 1. 韓国・慶州とは？

## 2. 慶州金冠塚とは？

- ・ 三国時代新羅の積石木槨墳
- ・ 1921年秋に史上初めて積石木槨墳から大量の遺物発見
- ・ 遺物発見の経緯

## 3. 「金冠塚遺物慶州留置運動(以後「留置運動」と略称)」の展開

⇒ 「留置運動」は朝鮮総督府が発見された遺物を 京城(ソウル)へ搬出し、総督府博物館で保管・展示しようとしたことに対し、慶州の地域住民が反発し、金冠塚出土遺物を慶州に留め置くことに成功した運動である。当時強大な権力を有した総督府に対し、慶州に居留する日本人と朝鮮人が協力して運動を展開し成功を収めた、植民地期朝鮮において稀有な運動だった。

⇒ 「肯定論」と「否定論」の混在

## 4. 韓国国立中央博物館所蔵「総督府博物館関連文書」に現れる「留置運動」

## 5. 朴文泓ぼくむのんを通じて見る「留置運動」と慶州3.1運動の関係

## 6. 「留置運動」の多様な力学と意味

- ・ 総督府の論理： 政治利用、植民イデオロギー(「日鮮同祖論」や「朝鮮停滞性論」等)の強化
- ・ 日本人学者の論理： 総督府政策の反映、学問的関心
- ・ 慶州居留日本人(諸鹿央雄等)の論理： 本人たちの地域利権の強化、遺物の盗掘・売買
- ・ 慶州朝鮮人の論理： 亡国の悲しみと怒り、祖先崇拜、民族主義など

## 7. 結論

・ 「金冠塚事件(金冠塚発見+「留置運動」)」とは人と遺物との複雑で不思議なダイナミズムを端的(圧縮的)に表わす稀有な事象である。人は遺物(文化財)に多様な意味を付与するが、逆にそうした遺

物(文化財)は人々の行動を左右する力を帯びるものでもある。⇒現代社会にもつながる問題

・ このように豊富な内容を含む「金冠塚事件」は考古学的観点ばかりではなく、歴史学や人類学など多様な観点から検討されるべきものである。

・ 特に当時の日本人の思考や行動を究明することと同時に、これまで捉えづらかった朝鮮人の思考や行動を浮き彫りにするための歴史資料としても活用される必要がある。

<参考資料・文献>

- 資料

韓国国立博物館所蔵「朝鮮総督府博物館文書・ガラス乾板」([https://www.museum.go.kr/site/main/content/japanese\\_gov\\_gen\\_korea](https://www.museum.go.kr/site/main/content/japanese_gov_gen_korea))。

韓国国家記録院所蔵「独立運動関連判決文」(<https://theme.archives.go.kr//next/indy/viewMain.do>)。

京郷新聞([http://news.khan.co.kr/kh\\_news/khan\\_art\\_view.html?artid=202103080600011&code=960100](http://news.khan.co.kr/kh_news/khan_art_view.html?artid=202103080600011&code=960100))

朝鮮日報アーカイブ(<https://newslibrary.chosun.com/>)

東亜日報アーカイブ(<https://newslibrary.naver.com/search/searchByDate.nhn>)。

- 文献(五十音順)

荒木潤「植民地期金冠塚出土遺物を巡る多層的な競合」『韓国史研究』174輯, 2016(韓国語)。

荒木潤「慶州3.1運動に対する歴史的考察：慶州第一教会の活動を中心に」『韓国基督教と歴史』第51号, 2019(韓国語)。

大坂六村(金太郎)『趣味の慶州』慶州古蹟保存會, 1939。

キム・ヒョンスク「日帝強占期慶州古蹟保存会の発足と活動」『視覚文化の伝統と解釈：靜齋 金理那 教授定年退任記念美術史論文集』, 2007(韓国語)。

国立慶州博物館『朝鮮時代の慶州』, 2013(韓国語)。

千田剛道「植民地朝鮮の博物館-慶州古蹟保存会と博物館-」『帝塚山大学教養学部紀要44』帝塚山大学教養学部, 1995。

鄭仁盛「日程強占期“慶州古蹟保存会”と諸鹿央雄」『大邱史学』 Vol.95, 2009(韓国語)。

東京国立博物館『寄贈小倉コレクション目録』, 1982。

濱田耕作・梅原末治『慶州金冠塚と其遺寶(古蹟調査特別報告3-1 本文上冊)』 朝鮮總督府, 1924。

濱田青陵『慶州の金冠塚』慶州古蹟保存會, 1932。

吉井秀夫「帝国主義時代慶州盆地慶州新羅古墳関連地図の製作と活用(日文)」『慶州大陵苑一円古墳資料集成及び分布調査総合報告書第1巻-調査研究及び活用-』慶州市, 2018(韓国語)。

李栄勳「慶州博物館の過ぎ去った話」『もう一度振り返る慶州と博物館』国立慶州博物館, 1993(韓国語)。

李龍洛『三・一運動實録』三・一同志會, 1969(韓国語)。

# 京都大学所蔵金冠塚関連資料について

吉井秀夫（文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター長）

はじめに

## 1 朝鮮古蹟調査関連資料の行方

### (1) 植民地時代

- ・朝鮮総督府博物館－出土遺物・復命書・ガラス乾板
- ・日本内地（東京帝国大学・京都帝国大学）－野帳・日記・図面・焼付写真・報告書作成関連資料

\* 本来、一ヶ所にあるべき資料が、複数箇所に分散している

### (2) 現在

- ・国立中央博物館→文書・写真のデジタル化とWeb上での公開
- ・日本→関野貞関係資料（東京大学）や梅原末治関係資料（東洋文庫）はデジタル化して公開されている。京都大学の資料は、韓国の出版物に提供してきたが、デジタル化・Web公開ができていない。

## 2 日本所在金冠塚関連資料における京都大学所蔵資料の位置づけ

### (1) 梅原考古資料における関連資料

- ・1921年当時の野帳
  - ・1922年～1924年の遺物整理の際に作成された実測図および観察カード
  - ・遺跡および遺物写真
- \* 基本的に、梅原末治の個人的な調査記録

### (2) 京都大学収蔵資料

- ・金冠塚および周辺古墳を撮影した写真・台紙
- ・金冠塚発見直後の出土遺物を撮影した写真・台紙
- ・整理過程で出土遺物を撮影した写真・台紙
- ・遺物の出土状況を検討するために作成された略図・模式図
- ・図版原図・トレース図
- ・原稿下書・図版編集用原稿

\* 報告書のために準備・作成された資料

### 3 京都大学所蔵資料からわかること

#### (1) 遺物の出土状況を検討するために作成された略図・模式図（左・中）

→出土状況図（右）を完成するまでの試行錯誤の過程をすることができる貴重な資料

#### (2) 多様な写真とその利用法

- ・金冠塚および周辺古墳を撮影した写真・台紙

→報告書の記述などからみて、田中亀熊（東洋軒写真館主人）の撮影であると思われる。

- ・遺物の図版作成

図版上冊（1924年5月25日印刷、5月30日発行、印刷所：株式会社似王堂）

出土直後の写真、および複数回にわたり撮影された遺物写真を組み合わせて作成。

\*梅原による遺物調査（1922年春、1923年春・秋、1924年春）がすんだものから遺物報告を作成

図版下冊（1928年3月15日印刷、3月20日発行、印刷所：株式会社似王堂）

沢俊一が撮影したと思われる個別遺物写真をもとに編集。遺物図面は、梅原の実測図を島田貞彦・水野清一・末永雅雄らがトレース。

→留学中（1925年～1928年）の梅原末治にかわり、考古学教室員が分担して編集？

おわりに

#### 参考文献

慶州市・新羅文化遺産研究院2018『경주 대릉원 일원 고분 자료집성 및 분포조사 종합보고서（慶州大陵園一円古墳資料集成および分布調査総合報告書）』

諫早直人・金大煥・金宇大・土屋隆史2011「교토대학 총합박물관 소장 금관총 출토유물에 대하여（京都大学総合博物館所蔵金冠塚出土遺物について）」『新羅古墳 精密測量 및 分布調査 研究』

国立慶州文化財研究所・慶州市・2011『日帝強占期新羅古墳発掘調査関連資料集』

吉井秀夫2011「교토대학 고고학연구실 소장 금관총 관련자료와 그 성격」『新羅古墳 精密測量 및 分布調査 研究』（日本語訳「京都大学考古学研究室所蔵金冠塚関連資料とその性格」『写真資料の分析を通してみた植民地朝鮮における考古学的調査の再検討』（2014年））

# 金冠塚再発掘の成果と課題

金大煥(学芸研究士／韓国国立中央博物館考古歴史部)

## 1 調査経緯

- ・ 国立中央博物館「朝鮮総督府博物館の資料整理事業」(2013年～現在)
- ・ 金冠塚出土品から「尔斯智王」銘を発見(2013年7月)
- ・ 金冠塚をめぐる研究シンポジウムの開催(2014年)
- ・ 金冠塚特別展「金冠塚と尔斯智王」の開催(2014年)
- ・ 金冠塚再発掘の必要性について

## 2 調査内容

### 1) 1921年調査内容の検討

- ・ 朝鮮総督府博物館の金冠塚調査関連公文書の調査
- ・ 東洋文庫梅原考古資料の調査
- ・ 東京国立博物館所蔵金冠塚関連遺物の調査
- ・ 京都大学所蔵金冠塚関連資料の調査
- ・ 国立中央博物館所蔵金冠塚関連ガラス乾板写真の調査
- ・ 国立中央博物館所蔵金冠塚出土品の再調査(国立慶州博物館2017)

2) 再発掘調査(2015年)

- ・ 地下物理探査
- ・ 残存墳丘の調査

3. 再発掘調査の成果と課題

1) 積石部

- ・ 積石部の構造
- ・ 積石部の木造架構(檜状建造物)
- ・ 積石部の築造プロセス
- ・ 地上式積石木槨墓における積石部の機能

2) 木槨

- ・ 二重槨構造 : 内槨と外槨

3) 出土遺物

- ・ 「尔斯智王刀」銘の追加発見
- ・ 金製垂飾付耳飾



参考文献

金大煥 2016 「地上積石式 積石木槨墓의 木槨部와 積石部의 性格」『考古学誌』 第22集 pp. 89～114

国立中央博物館 2017 『慶州金冠塚(遺構篇)』

国立慶州博物館 2017 『慶州金冠塚(遺物篇)』

沈炫暉 2020 「新羅 積石木槨墓 研究」釜山大学校 大学院 博士学位論文

高久健二 2018 「新羅積石木槨墓の埋葬プロセス」『国立歴史民俗博物館研究報告』 第211集 pp. 167～209

崔秉鉉 2016 「新羅 積石木槨墳의 築造技法과 展開」『崇實史学』 第37集 崇實大学校 史学会 pp.33～110

濱田耕作・梅原末治 1924a 『慶州金冠塚とその遺寶 本文上冊』朝鮮總督府

濱田耕作・梅原末治 1924b 『慶州金冠塚とその遺寶 圖版上冊』朝鮮總督府

濱田耕作・梅原末治 1928 『慶州金冠塚とその遺寶 圖版下冊』朝鮮總督府

濱田青陵 1932 『慶州の金冠塚』慶州古蹟保存会